文芸欄

俳句



宝愛句らぶ（中央区）
百日紅塀よりはみ出て揺れにけり　和子
かき氷ひいきの店や地震呑む　悦子
かき氷ひと匙含み顔歪み　静
休憩のベンチに揺れる芙蓉かな　道子
鳴き終えてやがて餌になる落蝉よ　丘
イチゴ味舌の赤さや氷水　和志

梅の美会（兵庫区）
この暑さ外出なしの日の多く　藤井　歌子
けだるさや風鈴鳴らぬ昼下がり　山田　朝子
見て見てと幼子の手にてんと虫　粟野　富江

高原ささゆり会（北区）
キノコ飯焦げを喰らいて自慢顔　島田　脩
豆腐やのラッパに揺れる萩のはな　佐藤かなめ
母真似て編みしセーターそっと抱く　南　久美子
初秋の明け方暗き夢の中　松村二三枝
萩ゆれて妖しの門が開くよう　中井　裕子

短歌

高原ささゆり会（北区）
ニホンモリ「日本盛」をそう読んだ
　酒を覚えた十八の春　佐藤伸二郎
拡大鏡近づけ覗く睡蓮の
　陰に隠れるメダカの子　佐藤かなめ
白球に思いを込めて爽やかに
　真紅のペナント夢舞台　島田　脩
我が家に生まれし五匹の仔ら順に
　笑み走りゆく虹の麓へ　中井　裕子
黙々と無心になりて草を刈る
　青き香りに我は憩えり　箱守喜久子

刈干を終えて明日は秋祭り　佐藤伸二郎
月待ちぬピタと張りつく家守の子　笠井　照子
意味深な視線を投げるイボムシリ　若林　節子

ひまわり句会（北区）
ドライブや山に咲く百合眺めつつ　石井　敏子
せまり来る酷暑にも耐え今を生く　辻　寿賀子

ひよどり台句会（北区）
特攻花喜界島にも供えたり　塩見　光子
花野来て寝転んで見る空青し　田中　弘子
猛暑中グランドゴルフ常のごと　中井　光子
診察を待つ膝に置く夏帽子　矢谷登美子

見山台新樹会（北区）
物音の消えて猛暑の午後一時　高石　勝行
とび石は私の歩幅ひつじぐさ　貞永　弘子
遠慮気にカナカナカナと初鳴きの　佐溝満喜子
網戸越蟬とまり来て盆に入る　松隈　弘子

五色山健寿会（垂水区）
一本の枝に溢るる蝉しぐれ　智子
群雀小首傾げる土用干　眞みこ
あいさつは酷暑の愚痴に始まりぬ　波音
診察に付き添ふ朝や白き靴　くに子

◆個人
秋風にこぼれし萩の白露よ　（灘）上田　節子
　寂莫の庭山間の宿
「八十五歳の集い」にえがおで集まりて　（北）乾　外志
　二十四人が乾杯をする
亡き猫に似た白雲を眺むれば　（須）江口　啓子
　過の日偲ばるチンチラペルシャ
手をつなぐタイミングさえつかめずに　（須）蔭山　宮子
　少し離れて歩く公園
彼岸前いつもの顔でやって来る　（須）粕谷　政男
　敬老祝う事業計画
この暑さ熊本思えなんのその　（西）吉野　洋子
　足るを知る日々復興願う

黒白の写真の父や終戦忌　毬花
ペルシアングラスの古色百日紅　淡峡

きらく句会（西区）
この庭に生まれ育ちの蟻の列　森本　珠美
脳トレにお手玉遊び猛暑の日　阪本　道子
水やりに負けじと張りし蜘蛛の糸　喜田　弘征
朝顔の水色の花こぶりなる　栗崎　節子
詠む句皆没句で決り法師蝉　廣常　憲

◆個人
九十過ぎうちわ使えて今暑無事　（灘）福井　悦子
施餓鬼会の左右に並ぶ扇風機　（須）粕谷　政男
あの夏へ長い黙祷蟬時雨　（須）福本　和恵
核の無き平和の世界千羽鶴　（垂）田畑美恵子

川柳

深江親交クラブ（東灘区）
整理下手片付け下手に鉦叩き　小田　節子
早朝の蝉大合唱に元気でる　辻本美佳子
天高く物価も高く秋の空！　津田　正江
テント村開いたところ熊そうどう　林　芳一
友も来ず犬も側には寄ってこず　増田　芳之
早起きし窓をあけて深呼吸　三島　茂子
猛暑にて飛ぶ鳥さえも見かけない　村瀬　武子
こんにちは挨拶すんで名前出ず　森　和子

生田新生クラブ（中央区）
へたが良い下手が楽しい川柳は　みぎははな
政治家は庶民の痛み知らん顔　むさし
昔はね水もしたたる良い女　ねね
水素水次世代に継ぐ希望あり　ヨシ
チャッピーに持たせて欲しい倫理観　却
クーラーとリモコン過労の夏終る　ゆうこ
滝の音暑さを逃れ旅心　靖
物忘れ知識を少し捨てただけ　カヤ

桂木ひふみ会（北区）
降水帯あちこち車のランドリー　荒木　宗Q
ゆらりゆら黙秘つらぬく水面下　京念久美子
なりたいな水もしたたるいい男　大和ケント

大雨でマンホール飛ぶ怖い時　笹岡　淑子
スマホから避難警報レベル3　杉尾　悦子

筑栄会（北区）
同窓会社長の名刺みんな無視　かをる
蝉しぐれアラートが出て昼休み　かほう
生きるとは値上げを無視で食すこと　菜々
クッククー地震を憂う鳩の声　三茶
化粧してゆるむ顔と気引きしめる　まさこ
電気代無視のクーラーこの猛暑　あきら
ご祝儀をあげるばかりでもらえぬ娘　ポン
「パワ」や「セク」なんでも「ハラ」をつける罪　せいい

◆個人
故郷は稲穂実りて収穫期　（東）早川キミエ
腹かかえ笑いころげた昔は遠し　（北）植田きみ子
暑気払いむかし飲み友集まらず　（須）粕谷　政男
イメージを破る淑女の花粉症　（須）久山　節子
松と鈴俺の出番は何時かいな　（垂）小髙　肇
歯医者行き眼科内科とはしごする　（西）藤原　健二

文芸欄 作品募集

会員の皆さまから俳句・短歌・川柳の作品を募集しています。日々の暮らしの中で感じたこと、季節の風景や思い出など、心に浮かんだ作品をぜひお寄せください。

【応募資格】
会員の方に限ります。

【募集作品】
俳句・短歌・川柳
※俳句・短歌・川柳のいずれも、お一人につき一句（首）のみとします。

【応募の際に必ず記入する事項】
①作品
②部門（俳句・短歌・川柳）
③郵便番号と住所
④電話番号
⑤単位クラブ名
⑥お名前
※句会など、複数の方の作品をまとめて投稿される場合は、代表者の方のお名前・住所・電話番号等を記入してください。

あとがき

朝夕の風に秋の深まりを感じる季節となりました。スポーツや文化活動など、さまざまな行事が楽しみな秋。仲間との交流を通じて、心も体も元気に過ごしたいものですね。新しいことにも挑戦しながら、笑顔あふれる実り多い秋をお楽しみください。